

**平成 30 年度 第 1 回 清瀬市史編さん委員会**  
**議事要旨**

日 時： 平成 30 年 5 月 21 日（月）  
午前 10 時 30 分～12 時

場 所： 生涯学習センター 会議室 1

出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、谷口康浩、浅倉直美、黒川徳男、齊藤隆雄、齊藤靖夫、  
岡田耕輔、黒田一美、小西一午、中澤弘行（11 名）

欠席委員： 高村聰史、坂間和英（2 名）

事務局： 市史編さん室長、市史係 3 名（4 名）

《次 第》

1. 開 会
2. 刊行に向けて
  - 1) 装丁等検討事項について
  - 2) 刊行に向けてのスケジュールと各部会の進捗状況
3. 『市史研究 きよせ』について
4. その他
  - 1) 今年度の啓発事業について
  - 2) その他
5. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（平成 30 年度 第 1 回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 通史編・資料編刊行に向けての検討事項【資料 I】

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長           ただ今より、平成 30 年度第 1 回清瀬市史編さん委員会を開催します。

事務局 議事に入る前に、事務局より配布資料についてご説明いただきます。  
(配布資料について説明)

## 2. 刊行に向けて

### 1) 装丁等検討事項について

委員長 では、議事に移ります。

清瀬市史編さんに係る基本方針が定まって以来、そろそろ刊行に近づいています。来年度、古代・中世の資料編が刊行されます。市史が形になっていくわけですが、刊行に向けては、装丁など、外側をどうするかについて、また、中身の活字、フォント、紙質や製本方法等々について決めなくてはなりません。

これらの検討事項について、まず事務局からご説明をお願いいたします。

事務局 【資料Ⅰ】に、刊行に向けての検討事項をまとめております。この一覧のなかで、名称など、影をかけている部分については、すでに前回までの市史編さん委員会で検討済みの項目です。

今回は、表紙などの装丁についてご意見をいただければと考えております。

まず、表紙ですが、前回の『清瀬市史』のように布クロス張りとするか、あるいは、紙クロス張りにカラーのカバーをつけるものにするのか。

布クロス張りの場合、箱をどうするか。

また、題字について、手書きを基にしたものか、活字を使うか。

表紙の色合いはどのような色がよろしいか。

こうした点につきましてご意見をいただきたいと思います。

参考例として他市の市史をいくつか持参しました。お返ししますので、ご覧ください。

委員長 ありがとうございます。【資料Ⅰ】検討事項を確認していきます。

まず、名称については「清瀬市史」番号をつけて、通史編、資料編全6巻とする。

判型は前のものよりもひとまわり大きく B5 版とする。

文字の向きとしましては、通史編は縦書きとし、資料編は編ごとに検討する。

フォントについては、一般に活字として使われている明朝体、判型が

B5版ですので、基本の文字の大きさですが、10.5ポイント、少し大きめの文字とする。

カラーは使用する前提で考えていく。

紙質については検討中ですが、裏に図や写真が透けないもの、全編で統一した方がよいということで、事務局の検討に任せる。

製本は、上製本、つまり糸できちんと綴じたものが望ましい。

そのあたりはだいたい決まっております。

また、通史編は1,000ページ、資料編は800ページ程度。分厚すぎると重く利用しにくい、資料編は全編が同程度の厚さが好ましいというご意見がまとまっています。

部数はこれから考えていく、ということになっています。

今回、ご意見をいただきたいのは、表紙や、箱、カバーについてです。

布クロス張りの場合は、箱があるものが多いです。箱も、ホッチキスでとめただけのものもあれば、箱にもお金をかけて丁寧な貼り箱にしているところもあります。ただ、箱は図書館などでは廃棄されてしまうのが一般的です。

布クロス張りでは、入札等々の都合から途中で業者が変わった場合に布の色合いが少し変わってしまったというところもあります。

まず、ご意見いただきたいのは、表紙をどうするか。布クロス張りか、紙クロス張りにカバーをかけるか。

感覚的なことは非常に重要なことですので、ご自由にご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員 私の感覚では、写真のカバーがかかっている方が今風な感じで、時代の感覚に合っていると思います。

委員長 かつての市史は、市の格式、風格を代表するような感じで作っていたものが多かったようですが、今の市史は、より市民に寄り添うような、いかに市民に親しんでもらうかということが重視されてきているようですので、今のご意見は重要かと思います。

委員 やはり、手に取りたくなるような感じが大事だと思います。視覚に訴えるものがあるのがよいと思います。外観から中のように想像できるようなものがよいです。箱はなくてよいかなと思います。本棚に入れるときは家でも箱はとってしまっています。

委員 市民が手に取って開いてみたくなるような装丁がよいと思います。重厚なものより軽便な感じのものがよいです。

委員長 いままでの意見では、箱なしで、布クロス張りよりも紙クロス張りにカバーをかける形式のものがよいのではないかということですが、他の

委員のみなさまいかがでしょうか。この方向でよろしいですか。

委員 カバーをつけるというのは、本が新しい時はよいですが、使い込むうちに破れたりすると思います。カバーだけ余分に作っておいて補充できるようにするなどの方策は考えられますか。また、図書館ではどうなりますか。

委員 図書館では、カバーごとフィルムをかけるようになっています。

委員長 カバーの補充は、新しい方法としておもしろいかもしれません。

委員 はじめに意図したことが、時を経ても有効であり続けるような工夫があるとよいかと思います。

委員 カバーの材質を丈夫なものにするなどの検討も可能ではないでしょうか。

委員 カバーの図柄、使う図版についてですが、近世、近代、現代、と文字で並んだときに、自分が調べたいことがどの本に書かれているのかイメージできないこともあると思います。例えば明治時代のことを調べたいが、それは近世なのか近代、現代どれに該当するのか、それ自体がわからないまま調べ始める方もあると思います。ですので、図柄については、各時代をイメージしやすいものにするといった工夫ができれば、実用的な意味からもよいということで、各時代異なるカバーをかけることに賛成します。

委員長 では、意見の集約として、紙クロス張り、箱なし、カバーあり、ということよろしいでしょうか。

次のイメージカラーというのは本体の色ですが、清瀬をイメージするような色というとうどうなるでしょうか。

一般的に暗めの色が多いようですが、汚れが目立たないようにということなのでしょうか。

委員 旧清瀬市史は濃いグリーンでしたが、新しい市史は少し明るい、きれいなグリーンがいいと思います。

委員 よいと思います。

委員 くすんだ色ではなく、明るい色の方がいいと思います。

委員長 色の感覚は個人によって違うとは思いますが、明るいグリーンということで、事務局で次回にご提案いただくということよろしいでしょうか。

委員 質問ですが、絵本などではカバーと同じ図柄が表紙に印刷されていますが、そういうことは難しいのでしょうか。

委員長 それも新鮮で、これからの先取りになるかもしれません。

委員 カバーに窓をあけて中が見えるようにするという手法も考えられます。

委員長 いろいろご意見をいただいて、事務局で検討していただくということ  
でよろしいでしょうか。

では、次に題字についてです。最近、明朝体、隷書体など活字を使  
っているところが多いようです。かつては、市長が書いた市、市内の有  
名な書家に書いてもらった市もあると聞きます。

最近、活字でもいろいろな書体があります。他市の市史を参考でお回  
ししていますが、ご意見としていかがでしょうか。

事務局 手書きが良いか、活字が良いかについてご意見をいただければ、次回、  
それに沿ったサンプルをご用意したいと思います。

委員 やっぱり行書がいいと思います。草書では読みにくい。

委員長 あまり奇をてらったものでなく、読みやすいことが肝要かと思  
います。書家に書いてもらった市の話ですが、文部科学省で示している字ではな  
くなくなりました。字の書き方としては、学校で教えている筆順を  
無視したような書き方もそぐわないかと思

小学生でも、中学生でも、清瀬市史とわかる題字がよいのではないで  
しょうか。

委員 市長にお願いしてみて、もしだめなら活字という考え方もありと思  
います。

委員 縦書きに合った字体がよいと思います。

委員 デザインを工夫するということですから、文字はシンプルで読みやす  
いのがよいと思います。

委員 予算の問題もあると思いますが、デザインについて装丁家に相談する  
方法もあると思います。

委員長 いろいろご意見ありがとうございました。あとは、このような形で以  
後検討するということがよろしいでしょうか。

委員 了承

## 2) 刊行に向けてのスケジュールと各部会の進捗状況

委員長 では、続きまして「刊行に向けてのスケジュールと各部会の進捗状況」  
に移ります。事務局から、説明をお願いします。

事務局 参考資料として、平成 29 年度第 1 回委員会の資料「刊行計画と準備ス  
ケジュール」をお配りしています。

平成 31 年度に古代・中世の資料編刊行を皮切りに順次刊行を始めるに  
あたり、編さん状況の把握をよりいっそう深めたいと考えております。

各部会で資料編について目次の構成案をできるだけ早めに作成していた  
だき、その構成にそって作業がどれくらい進んでいるのかをお話いた  
だけたらと思っております。

委員長 それでは、刊行順に、今現在の進行状況をお話いただければと思いま  
す。まず、古代・中世部会お願いします。

古代・中世部会長 古代・中世部会の資料編は平成31年度刊行ということですが、年度末、  
平成32年の3月に皆様のお手元に届くことを目標に考えています。

資料集刊行のトップバッターを仰せつかっています。【資料I】の表は  
平成26年度から始まっていますが、調査は実質翌27年からですので、  
今年で4年目です。平成31年度までの5年間で800ページの資料集を出  
すというのは、実はあまり例のないタイトなスケジュールでもあり、鋭  
意努力しているところです。そのようなわけで、平成32年の3月まで少  
しお待ちいただきたいと思えます。

部会長会を経ないと、古代・中世部会だけでは決められないことも多  
くありますので、途中経過の報告になりますが、目次案を立てました。

古代・中世部会では、古代から徳川家康が江戸に入るまでの期間という、  
相当長い期間を対象としますので、古代、中世前期いわゆる鎌倉時代、  
中世後期いわゆる室町・戦国時代という3つのグループに分けて活動し  
ており、目次を調整しています。

実は、戦国時代の終わりまでの清瀬市域に関係する資料を挙げるだけ  
では資料が少なく20ページほどの資料集にしかありませんので、市域を  
中心に範囲を広げ、テーマを立てて資料を集めていくという作業を進め  
ています。

古代については、委員会発足当初、市長からのお話がありました「悲  
田処」をテーマのひとつとしてとりあげます。

学術的には、古代史は全国レベルに目を向けないと資料が集まらない  
ので、古代史で資料編を出すときには全国のものを集めてくることにな  
ります。この周辺ですと、武蔵国くらいの範囲で資料を集めてくるのが  
常です。古代ではテーマを立てて資料を集めるということはあまりしな  
いのですが、あえて清瀬では「悲田処」をひとつのテーマとして掲げて、  
全国の悲田処関係の資料を集めるという新しい試みを考えています。

清瀬に密着する資料は限られていますが、清瀬の古代の悲田処にまつ  
わる歴史的な経緯をもとに全国に目を向け、全国の資料を集め、1章と  
することを考えています。

次に、古代の武蔵国についてです。清瀬市域は多摩郡と言われてきて  
いますが、自然的な状況として多摩川と荒川の間にある地域なので、最

近の古代史の研究では、水の関係から、古代のはじめには多摩郡との交易があったけれども、後になると北の入間郡との交流があったのではないかという説が出てきています。これまでは多摩郡のものを集めるのがオーソドックスなやり方でしたが、あえて入間郡の資料も集める形を考えています。

B5版でのレイアウトも既に考えておりまして、これに沿って原稿化を進めています。資料編の解説は、歴史に興味のある中学生にわかるようなものを意識しています。

中世前期も資料が少ないですので、多摩郡と入間郡、両方の資料を集めます。村上党、片山氏といった具体的な一族が出てきますので、関係する資料、また街道に関する資料を集めています。

中世後期、500年前くらいになると清瀬の雰囲気わかるものが資料として出てきます。「清戸」という地名が史料上にでてきますので、そういうものを集めたものを節として設けます。あとは、人物を追って、大石、三田一族の資料を80点ばかり考えています。

戦国時代は、八王子城主、北条氏照の支配地域だったので、通例は関係する資料集めから始めるのですが、それですと八王子市史と同じものを後から出すことになってしまいます。ですので、八王子市史でやっていないこととして、写真を集めています。氏照関係の文書は全部で300点ほどありますが、到底それを全部は集められません。そこで、サインにあたる花押の変遷を追うことによって、年代のわかっていない文書の解読につなげたいと考えています。この対象文書が150点くらいあるのですが、できるだけを集め、注をつけていくことを考えています。

また、考古部会と調整ができましたので、板碑資料を古代・中世の方で扱うことになりました。拓本採りなどをして最後に載せるページを設けます。

目次の確定を早急にいたします。入稿に向けて原稿作りを始めております。印刷業者と相談しつつ、順次入稿、平成31年の3月をめどに刊行ということで鋭意努力しているところです。

委員長  
／近世部会長

ありがとうございます。

では、続きまして近世部会について、私からお話します。

近世の資料集は古代・中世の1年後、平成32年度刊行予定です。資料のスケジュール表を見ますと、順調に進んでいると言えます。

まず、資料収集ですが、郷土博物館にありました清瀬の近世資料は、上清戸の村野家文書、下宿の高橋家文書があり、これらが一番量の多い資料で、これを現在調査しております。

市史編さん事業が始まった後、編さん室の努力で、中里の旧家から資料が出ました。この資料のあり方によって、これまで考えていた目次の項目を変更しようかと思うくらい興味深い資料です。

中里は、武蔵という旗本の知行地でした。近世後期に財政が窮乏し、中里村に御用金を命じたりしていますが、そのうち村の方が強くなり、武蔵氏の家来たちが、これ以上要求しないのであと十両だけ送ってくださいと言っている資料があります。近世後期には、武蔵家の隠居がずいぶん金を使っているようすがわかる資料があります。その隠居というのが、武蔵石寿（せきじゅ）という有名な博物学者なのです。東京大学の総合博物館に、かつて東京大学農学部にあった江戸時代の昆虫採集資料、標本があるのですが、それは石寿がつくったものです。採集地がわからないそうですが、中里で採ったものだと思いしています。確認しながら市史に反映できれば良いと思っています。

旗本の領地でありながら、旗本と領地の関係については、前の市史にも書かれていませんので、新しい史実が多く書けるのではないかと考えています。

目次は、市町村史の多くが歴史の展開に合わせて年代順で並べているのですが、清瀬では、現在ある資料の残存状況を尊重しながら目次の項目を作り上げていく方法をとろうと思っています。資料から村の姿を見出していくような目次にしたいと思って、調査員と検討中です。

資料集の編さんには、資料の筆写、くずし字で書かれたものを活字に直していく作業が必要になります。計算すると、400字詰め原稿用紙2500枚分が1冊の本に必要なになります。誰にでもできる作業ではないので、現在の調査員にもお願いしていますが、多少、調査員を増員する必要があるかと考えています。筆者要項や執筆要項も作っています。

スケジュール的には順調に進んでいます。

では次に、考古についてお願いします。

考古部会長

考古の資料編の刊行は平成34年度で少し先ですが、刊行に向けて具体的に計画を立てて段階的に進めています。

考古の場合はカバーする時代が非常に長いです。旧石器、縄文時代から江戸時代の考古資料を扱うことになりますので、それぞれの時代の担当者を決めて調査や執筆を分担していく方法を進めています。ようやく各時代の担当者が決定したところです。博物館の職員の方々の参加、協力もいただけるということで、清瀬市では良好な関係で臨めるよう安心していきます。

懸案だった環境史については、早稲田大学の久保純子教授が担当して

くださることになりました。久保先生は武蔵野台地の地質や河川の研究を続けてこられた方です。

現在は資料調査を進めています。未発表資料、新出資料について、順次、資料調査と図化、測量などを進めています。

これまでに、中里の渋谷家敷地の、土塁と考えられる遺構の測量調査、またお宅に所蔵されている中世の武器、武具類の部品を調査、図化したところ です。

また、市内で発掘調査されてきた考古資料がたくさんあるのですが、そのなかから資料編に掲載する資料の選定作業を進めています。

土器についてはこれまで拓本を掲載してきましたが、今、三次元測量の技術が非常に進歩しておりますので、技術的な検討を進めていきたいと思 います。

写真をふんだんに使っていいということですので、できるだけ掲載していき たいと考えています。

地質調査も環境史の久保先生と相談しながら開始していく予定です。既存の市内のボーリング資料を調査するほか、この先、新しい市庁舎の工事が始まると地面を数メートル深く掘り下げよう な現場が出てくると思 いますが、そういう機会をとらえて地質断面の調査、記録をしたいと考 えています。

委員 長  
現代部会長

続きまして、近代部会、現代部会について併せてお願いします。

近代部会長が本日欠席ですので、併せて私からお話します。

近代の資料編刊行が平成 35 年、現代の刊行が平成 33 年です。現代資料に比べて近代資料の方がはるかに読みにくいといったことから、刊行が最後になっています。

正直申しまして、調査作業は遅れております。本年、本格的な調査に入ろうと、近代部会長と話し合ったところ です。そのなかでいくつか項目あげをしてきました。近代、現代という と、他の自治体と同じようなものになりがちです。明治の産業発展、日清・日露戦争、関東大震災とい ったパターンをおさえつつ、清瀬らしさを出さなくてはならないと考 えています。

清瀬らしさとしては、明治では多摩の自由民権運動、これを多摩地域全体のネットワークのなかで押さえていかななくてはなりません。

近現代資料の特色として、活字資料、一般的な刊行物、統計といったもののなか に清瀬が出て来る。そういうところを今調査しています。

また、米軍関係の資料にどういうものがあるかについても見えています。

これまで、地元のみなさんにご協力いただいて聞きとり調査を行って

きました。その中で、清瀬は畑作地帯で、巨大な地主がいなかったのも、その分、農地改革は激しかったのではないかというお話がありました。こうしたことを客観資料で裏付けたいと思っています。

また、清瀬といえば病院の多い町ですが、なにゆえそうなったのか、他の市との違いは何か、これが説明できる資料を集めたいと考えています。

あとは、鉄道の関係です。

清瀬らしさという観点では、日本史が一般に稲作中心のものになる中で、畑作地域の近現代がどう展開していったかを意識する必要があります。

郷土博物館にある明治期の日記なども活用しつつ、清瀬らしさの出る目次編成を考えています。

委員 長  
委 員

ありがとうございました。ご意見、質問などないでしょうか。

学生の啓発につながる市史になるとよいと思います。さまざまな俗説がインターネットに出まわるなか、ここは確かである、あるいは、ここはおかしい、ということがわかり、歴史に対する考え方が啓発されるものになるとよいと考えます。

書かれないことは積極的な認識につながりませんから、根拠がないから書かれなかったのだとしても、触れない理由は何か、どういう認識で書かれなかったのかということは、一般にはわかりません。本編ではないところでコメントできる場や、そうした質問も受けとめて答える場があつてよいかと思えます。

古代・中世部会長

歴史が科学であるのは、資料の裏付けがあるからですが、あくまでもそれは「その時点の結論」であり、新しい資料が出てくると覆るものであるということをご理解いただきたいと思えます。

その意味からも、資料編刊行の後にも調査はぎりぎりまで続けることが大切ですし、ご提案のように、中高生の興味に応えるためにも、質問を受けとめる場があることも大切だと考えます。

委員 長  
委 員

ありがとうございました。では、刊行スケジュールと各部会の進捗状況について、よろしいでしょうか。

了承

### 3. 『市史研究 きよせ』について

委員 長

では、次に、『市史研究 きよせ』について、事務局からお願いします。

事務局 まず、第3号発行のご報告です。『市史研究 きよせ』第3号を、平成30年度末に刊行し、委員のみなさまのお手元にお届けしているところです。

市内各図書館に配本したほか、各出張所、各地域市民センターに見本誌を置きました。

昨年同様、1冊300円で、郷土博物館ならびに市役所1階受付にて販売を開始しております。

今年度は、第4号を刊行いたします。第3号同様の構成を考えております。詳細につきましては、次回委員会でお話ししたいと考えています。

委員長 『市史研究 きよせ』につきまして、第3号の刊行報告と、第4号の予定についてお話いただきました。次号に向けて、なにかご提案等ありますでしょうか。何かございましたら次回でもお話いただければと思います。よろしいでしょうか。

委員 了承

#### 4. その他

##### 1) 今年度の啓発事業について

委員長 続いて、「その他」に移ります。今年度の啓発事業について、事務局からお願いします。

事務局 啓発事業につきましても、前年同様、市史講演会、『市史研究 きよせ』刊行、市史編さん室のブログ「市史で候」の更新、出前講座、各種広報活動、の5本立てを考えています。

委員のみなさまにご協力いただくことも多々あると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。啓発事業について、よろしいでしょうか。

委員 了承

##### 2) その他

委員長 では最後に、次回委員会の予定について、事務局からお願いします。

事務局 今回は8月上旬を考えています。詳しい日程につきましては改めて調整のご連絡をさしあげますので、よろしくをお願いします。

委員長 ほかに、全体にかかわること何かございますでしょうか。よろしい

委員 でしょうか。  
了承

## 5. 閉会

委員長 それでは、以上で今回の内容はすべて終了いたしました。これをもちまして平成 30 年度第 1 回清瀬市史編さん委員会を終了いたします。

## 通史編・資料編刊行に向けての検討事項

	検討事項	備考
① 名称	名称 ⇒『清瀬市史』	清瀬市史 1 通史編 清瀬市史 2 資料編 考古 清瀬市史 3 資料編 古代・中世 清瀬市史 4 資料編 近世 清瀬市史 5 資料編 近代 清瀬市史 6 資料編 現代
② 判型・装丁等	判型 ⇒全編 B5 に揃える	A5 は考古の資料編に小さく、A4 は持ちにくく、借りにくい 判型を揃えないと図書館などで編によって別の棚に配架されるおそれ
	文字の向き ⇒通史編 … 縦書き 資料編 … 編毎に検討	縦書き 考古編に馴染まない 横書き 通史が横書きということはまずない
	フォント ⇒書体・サイズは統一	書体は明朝体が好ましい B5 は 10.5 ポイントが一般的
	カラー ⇒使用する前提	
	紙質	裏に図や写真が透けないものがよい 全編で統一した方がよい
	製本方法	上製本が好ましい 並製本（無線綴じ・中綴じ）は、へたってしまいやすい
	表紙・箱・カバー	布張り — 箱あり・カバーなし — 箱なし・カバーあり 紙張り — 箱あり・カバーなし — 箱なし・カバーあり
	イメージカラー	
題字		
③ 頁数・部数	頁数	平成 27 年度第 1 回委員会の想定は通史編 1,000 頁、資料編 800 頁 分厚すぎると重く、利用しにくい 資料編は全編が同程度の厚さが好ましい
	部数	編毎に印刷部数が異なっても構わないのではないか 前回の市史が 2,000 部 『市史研究 きよせ』は 500 部